

文化・芸術

「ドイツ国旗のある朝食」

1914年、水彩、インク、紙
15・7cm×10・7cm

パウル・クレー (1879~1940年)

画面右上にドイツ国旗が見えます。本作が描かれた当時のドイツは帝政期であり、国旗は黒、白、赤の横じままで構成されていました。その左隣、赤いバツの上には、ティーポットとティーカップが黒い線でシンプルに描かれています。

クレーは、一度描いた作品をはさみで切って別々の作品にしたり、組み替えたりすることがありました。本作もそのようにして切り離されたものです。切り離すことによって遠近感が薄れ、日常と離れた世界感になると共に、色彩と線が際立ち、平面構成に近い作品となります。

本作が描かれた年は、第1次世界大戦が勃発した年でもありました。当館初代館長大川栄二は、「この作品は瑞々しい朝の市民生活を示しながら、この幸せを踏みにじり靴の裏の泥にしてしまう戦争の虚しさを静かに訴えているのでしよう」と言葉を残しています。

(池田)

名画の扉

大川美術館企画展から

